



バラが真盛り！
晩香爐のすは盛り土をしたフラワーベッド
が幾つか並んでいく香りが漂っていました。

[企画展]

孫から見た 渋沢栄一

さめ じま すみ こ
鮫島純子さんが語る「おじいさま」

2023 7 | 1 [土] → 8 | 27 [日]



渋沢史料館 企画展示室

開館時間 | 10:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 | 7/3日(月)、10日(月)、18日(火)、24日(月)、31日(月)

8/7日(月)、14日(月)、15日(火)、21日(月)

※開館日時が変更となる場合がありますので、当館ウェブサイトをご確認ください。

主催 | 公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

後援 | 株式会社栄太樓總本舗、株式会社光文社、株式会社帝国ホテル、株式会社文藝春秋



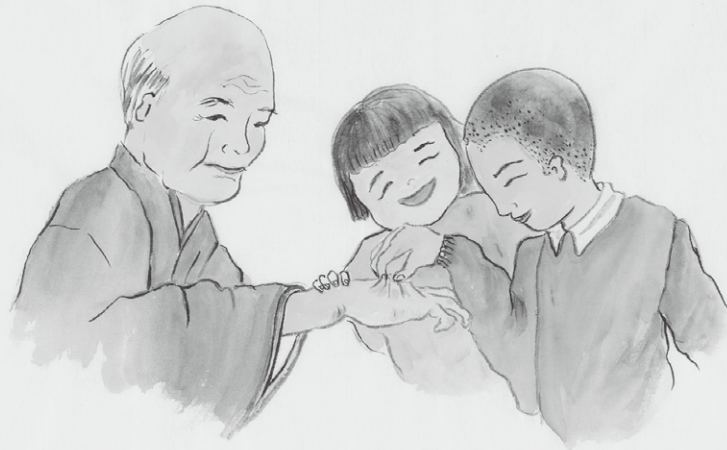
公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

入館料：一般300円/小・中・高100円

〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1(飛鳥山公園内)
TEL: 03-3910-0005 <https://www.shibusawa.or.jp>



面白がって みんなで 戯れ 遊ぶのを
 頼み、温かい手でした。
 少年時代、深谷の畑で鍛えた
 節々の逞しい手



おじいさまのお手は
 どうして皮がこんなのにのびるの？
 青い血の通り道が
 どうしてこんなにくらんでるの？

[企画展]

孫から見た 渋沢栄一

鮫島純子さんが語る「おじいさま」

2023 7 | 1 土 → 8 | 27 日

10:00~17:00 入館は16:30まで



掲載資料 渋沢史料館所蔵
 [表面] 鮫島純子 絵・文「庭の散歩と山高帽」(部分)
 孫たちに囲まれた渋沢栄一 1929年10月25日(部分)
 [裏面] 鮫島純子 絵・文「おじいさまのお手」
 孫たちに囲まれた渋沢栄一 1929年10月25日

公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
 Shibusawa Memorial Museum

〒114-0024
 東京都北区西ヶ原2-16-1(飛鳥山公園内)
 TEL : 03-3910-0005
<https://www.shibusawa.or.jp>

交通のご案内

JR京浜東北線王子駅南口下車/徒歩約5分
 東京メトロ南北線西ヶ原駅下車/徒歩約7分
 都電荒川線飛鳥山停留場下車/徒歩約4分
 都バス飛鳥山停留所下車/徒歩約5分
 北区コミュニティバス飛鳥山公園停留所下車/徒歩約3分
 ※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

渋沢栄一の孫で、エッセイストの鮫島純子さんが本年1月19日にご逝去されました。100歳でした。

純子さんは1922年、栄一の三男で実業家の渋沢正雄の次女として、東京・滝野川町西ヶ原(現・北区西ヶ原)に生まれました。「純子」の名は、栄一の命名によるものであり、純子さんは自分の名前をととても気に入り、栄一直筆の「命名書」と掛け軸を大切に保管していました。

純子さんは幼少の頃より、祖父・栄一が住む東京の飛鳥山邸を訪れ、栄一と接したり、お話ししたり、飛鳥山で大切な時間を過ごされました。また栄一が亡くなったあとも、思い出の地にたびたびいらっしゃいました。

純子さんのお話しは、心のこもった思い出というだけでなく、歴史的な「記録」でもあります。純子さんが語る「おじいさま」・渋沢栄一は、穏やかで優しく、他人を敬い大切にす人物でした。家族だからこそ知っている栄一の姿を、純子さんの語りやイラスト等を通じて、多くの皆様に知っていただければ幸いです。

[開催概要]

休館日 | 7/3日(月)、10日(月)、18日(火)、24日(月)、31日(月)
 8/7日(月)、14日(月)、15日(火)、21日(月)

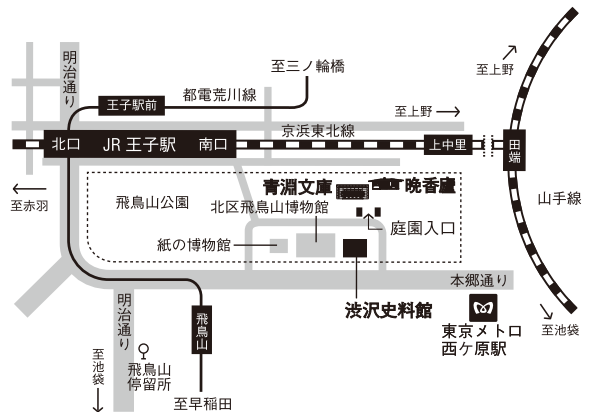
会場 | 渋沢史料館 企画展示室

入館料 | 一般300円/小・中・高100円

主催 | 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

後援 | 株式会社榮太樓總本舗、株式会社光文社

株式会社帝国ホテル、株式会社文藝春秋



※開館日時が変更となる場合がありますので、当館ウェブサイトをご確認ください。